

# 第7回 小中一貫教育懇話会

## 議事録 要旨

- 1 開催日時 平成 25 年 9 月 18 日(水) 19:00～21:10
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）、中谷辰幸（生駒北小学校育友会長）  
影林保志（生駒北中学校育友会顧問）、正田文敏（打田・高船保護者代表）  
井上園子（「i どばた会議」共同幹事）、藤堂宏子（ひかりが丘自治会会長）  
窪田博明（久保自治会顧問）、十文字良明（生駒北小学校長）  
柳田富恵（生駒市校園長会長）、富山二郎（生駒北小学校教諭）  
政岡俊伸（生駒北中学校教諭）、山本均（生駒北小学校教頭）  
上西均（生駒北中学校教頭）

### 4 開会あいさつ （峯島部長）

### 5 質疑応答

座長代行： 今日、修正した生駒北小中一貫教育のイメージについてご意見をいただきたい。また生駒北小中学校の教育課程の連携についてご報告いただき、それについて検討する。それから次回に懇話会としての一定の方向性を出すことについてご意見をいただく。まず生駒北小中一貫教育のイメージの修正版について事務局から説明してもらおう。

事務局： 前回と大きく変わっているのは2点。1点目は、あれもこれもと多くの内容が入りすぎているとご指摘いただいたこと。小中一貫でなくてもできるものばかりだというご意見があったことをふまえ、小中一貫でないとできないものと小中一貫になれば効果が上がるものに絞った。2つ目は、縦軸に伝統と先進、横軸に学年を取って教育課程の編成をまとめた。学校のイメージなのでどのような子どもを育てていくのかという視点も必要と考え、それを〇囲みで示したが、時代や子どもの実情によっても変わるし、教員が地域の思いを聞きながら学校教育目標で示してもらうのが望ましいと考えた。また、英語教育を1年生から行ってはどうかという意見もあったが、できるだけスタートは現状からと考え、現行通りの3年生からという形で示した。先端大と連携した理数教育の推進も現行をベースにした5年生からにしている。

座長代行： 意見や質問があれば出してほしい。

参加者： グローバル社会を意識する意味では英語教育、理数教育、ICT教育が重要だ。富雄第三小中学校や大原学院では図書館が整備されていた。言語活動や読解力の向上が教育課程上重要。また、学びのセーフティネット整備という視点からも、図書館教育を充実してほしい。

事務局 : 生駒市は図書館教育に力を入れている。また、図書館は学校の学習情報センターという位置づけもされている。図書館司書は全校に配置した。本を読むことは学力向上につながるとともに、人間を育成することや生徒指導にもつながる。

参加者 : 北小は読書タイムが設けられている。中学校でも図書は充実していて、読書が定着している学校だと感じるので、図書館や学級文庫の充実をお願いしたい。情報社会でもあり、読書することや図書館教育は大切だ。

参加者 : 去年寄付をいただき、本を 300 冊と丸型のテーブルと赤い椅子を買った。今度はカーテンも買い換えようと思っている。子どもたちは明るい環境で読書できるようになり、充実した図書館となっている。朝は必ず先生と子どもが一緒に本を読む時間を作っており、読書は人間形成上なくてはならないものだと考えている。PTA もバザーの収益金で図書室の本を買ったり、家で読み終わった本を寄付したりし、子どもたちが本に親しむ環境づくりを行っている。

参加者 : 専任の図書館司書が週一回来てくれるのはありがたい。専門的な見地から本を選び、子どもたちに紹介してくれる。4 年生までは国語が 7 時間あり、そのうち 1 時間を読書指導に充て、ボランティアにも本の読み聞かせをしていただき、そのおかげで本が好きな子が多い。読み聞かせは 15 年ほど続いており、定着している。

(小柳座長到着)

事務局 : 読書指導や図書館教育は重要だ。小中一貫校でなくてもできることではあるが、図書室を学校の学習情報センターにすることも含めて、図書館の充実を小中一貫教育のイメージに取り込めたらと考えている。

参加者 : 生涯学習の観点からも図書室の整備や充実が大事だ。

座長 : こんな教育を大切にしてほしい、という他の意見はないか。

参加者 : 中学校では覚えなければならない英単語が多く、英語が嫌いになる子どもも増えると思われる。先進校として下の学年におろしていくことで、中学生の英語の力が伸びていくような指導を考えてもらいたい。

参加者 : 人数が少ない学校だからこそ、地域全体が 1 つの大きな家族のようにとらえた学校づくりができるのではないかと。市はスーパースクールゾーンを計画し、こども園も設置すると聞いている。老人会などいろいろな年代の人と交流し、お年寄りに優しい子どもを育てる仕組みも作ってほしい。

座長 : 前々回だったか、大原学院の視察報告でも保育園のかなり小さい子どもたちを目の当たりにしながら小中学生が育っていくことからコミュニティ全体が子育てを見守る体制ができているという話もあった。では、生駒北中学校と生駒北小学校との教育課程連携について説明をしていただく。

参加者 : 地域の特色としては、茶釜作りが盛んで奈良先端科学技術大学院大学がある、ということである。そこで、地域学習を整理することで中学校のキャリア教育とつながっていくのではないかと考えた。他の地域にないものは茶釜。茶釜組合も学習に協力してくれている。最終的に中学校卒業時にどんな力をつけなければならないのか、そのために小中学校でどんなことをするのかを示した。子ども同士はフレンドリーだ。卒業した方もこの学校に愛着を持っていて、同窓会を開くなどされている。学校教育にこれほど協力的な地域はない。「わくわく」と名前のついた様々な活動、老人会、茶釜組合による行事など、地域の方も一体となって学校を作っている。地域を愛し、地域の一員

としての自覚と誇りを持ち、大人になってからも地域に貢献する子どもたちを育てること、ここに地域を学ぶ意義がある。普賢寺小学校との交流、中学校と小学校との交流は今のところできてはいないので、どこかでやっていきたいと思っている。

参加者 : 保護者や地域の思いは学力の向上だ。同じ敷地内で小学校と中学校の先生がコラボレートし、中1ギャップのひとつとしてネックとなっている算数・数学の指導の問題を解消するための体系化を考えた。小学校と中学校では分数の扱いや小数の計算に違いがある。小中学校の接続がうまくいかなくて抜け落ちている可能性がある内容を拾い出してみた。中学校では少数の計算はあまりせず、分数の計算をする。小学校で分数の理解ができていない子がいる、あるいは割合の計算や作図ができない子も多い。このような接続教材は小中の先生が同じ敷地内で指導資料を作り、小学校の教師が教える。中学校の内容である先行学習は中学校の先生が小学校に行って指導する。普賢寺小学校からの生徒や転校生は接続教材や先行学習ができないので、入学後に補助教材を使って補習授業を行ったり、春休みに遅れを取り戻す授業を受けたりする。中高一貫教育には体系数学と言われるものがあるが、小中一貫教育の体系算数数学というものはない。非常に難しい課題だが、しなければならないと思っている。これによって小学校から中学校への段差なき接続が可能になる。

座長 : 質問や意見はないか？

参加者 : 小学校ではお点前体験等お茶に親しんでいる子が多いので中学校でもやってほしい。竹あかりの夕べでは市立中学校の茶道部が手伝いに来るらしいので、北中でも茶道部を作ってほしい。ボランティアも喜んで協力してくれるだろう。高山盆まつり・ふれあいまつりがあるが、盆まつりでは育友会がバックアップして子どもがお店を出す手伝いをする。お金の計算等できないとお店が出せない。これは職場体験である。高山はすごいな、と言われる取組をしてほしい。算数数学の資料についてはよくわかった。低学年の時から計算が嫌いな子や苦手な子に、また保護者にも指導をしっかりしてほしい。難しい問題を学習する前に計算ができないので定着しにくい。

参加者 : 英語は言語。英語を使って何ができるのかという方が大事だ。英語はコミュニケーションツール。英語でできることを経験させてほしい。大原では中学生が外国人に観光案内をするようだ。高山でも外国人にお茶をたてながら説明するといった取組をしてはどうか。英語を通じて外国の人と関わることを体験してほしいと思った。

参加者 : 地域学習体験学習でお月見どろぼうというのがある。子どもの頃はそれがすごく楽しみだった。しかし、家庭にはいろいろな考え方があって育友会でクレームを受けたこともあった。この行事に理解を示す家庭が準備をし、子どもは節度を持ってどろぼうに行く。この行事は地域の行事としては残したいのだが、小学校から中学校までの地域交流の学習のカリキュラムからは削除してほしい。小学校の算数と中学校の数学の説明資料について、接続教材、先行学習についてはよく分かった。自分が中学生のときにこのようなものがあればと思った。

参加者 : 算数数学の教育課程はよくまとめられている。一貫校だったらできる取組なのか、小学校と中学校が今もこんなに近いのにと考えた。少しでも中1ギャップを解消して欲しかったらと思う。部活動では地域のスポーツ経験者を活用することによって技術力の向上が期待でき、生涯スポーツにもつながると思う。

参加者 : 算数数学の教育課程表を見てなるほどと思った。自分が北小の教頭だったとき、北中の教頭と中学校の先生が6年生に英語を教える計画をしたが、こんなに近い距離なのに、学校が違っていると行事を合わせるのが大変で、日が合わなかった。小中一貫校だから、同じ職員室にいるからできるし、学校規模が小さいからこそできる、人数が少ないからこそできると思う。

参加者 : ありがたい資料だ。小中一貫校だからできる。一貫校だからやりやすい。しかし、一貫校であるうとなかろうとこういうことはやっていかなければならない。英語も社会も小中の交流が大切である。小学校では2年前に教科書が変わり、内容が豊富になった。教育課程表の接続教材を見ると、指導上抜け落ちてしまう可能性のある教材があることが分かった。この資料はありがたい。

参加者 : 数学も英語も先生1人でしなければならぬ、1人で小学校の先生方からの質問に答えなければならぬ。中学生の英語を教えることに長けていても、それが小学生にも言えるのかということを見ると、十分な人員が必要だ。

事務局 : 今後一貫校が実施されとなれば、教頭先生を中心に考えていただいたカリキュラムをもとにして市教委の専門の先生とも相談して、みんなの力でいいものを作っていきたい。安心してほしい。

参加者 : これから中学校に進んでいくにあたって、塾に頼って何とかしていこうとしか考えられない。小規模校であることを活かして1人ひとりへのきめ細かなケアを望んでいる。

参加者 : 打田高船地域のお子さんに対する対応を考えることがカリキュラムを考える上で大事だ。茶釜は高山地域の特産で大切だが、この地域の歴史を知ることが大事。打田高船地域も含め、郷土の歴史を学習し、誇れる地域にしてほしい。

事務局 : 教育委員会同士の連携も大事だ。普賢寺小学校や京田辺市の教育委員会に情報提供していくことが大切だと考える。

参加者 : 普賢寺小でも茶摘体験などを行っている。京田辺の茶も使ってほしい。

座長 : 地域を知って地域の中で学んで地域と共に学んで地域のためにできることを知るのが地域学習で、その地域とは高山と打田高船だ。ともに学び、地域に返していけるような学習でなければならない。また、全国学力調査などで小学校と中学校で共通した課題があれば、小中で情報を共有しながら組織として対応することが必要だ。課題が見えていて、それに対応して何かしていかなければならないということが分かっているけども、小中で話し合う時間がとれないなどの理由で一歩踏み出せないでいる例は多い。組織が一緒になってやっていくことが重要だと思う。

これまで懇話会では皆様と一緒に意見を交わしてきた。当初、10月で意見をまとめて報告する予定であったが、その時期が来た。審議がどう進み、どんな意見が出、どのような雰囲気になったか、それらをまとめる時期が10月だ。報告書は必要か。

事務局 : 必要ない。やわらかいイメージのまま、1年をかけた話し合いを小柳座長にまとめてもらう、それが来月だと考えている。その後はそれを教育委員会に報告し、小中一貫校設置に向かうようなら議会に提出して予算をお願いする予定だ。懇話会としての意見のまとめは多数決ではない。

座長 : ある程度皆さんの意見がこういう方向だということをもとめられたらよいのか。

事務局 : 今までの議事録がある。だから、それらと座長に来週まとめてもらう懇話会の意見を教育委員会に報告する。このような感じだったとまとめていただけたら、それでいい。

- 座長 : この件についてはみなさんからの意見をたくさんいただかないといけないと思う。
- 事務局 : 今日は話が弾んだ。第1回目の懇話会で教育長が10月と言ったのは、来年度に向けての実施計画と予算をこの時期に出さなければならぬからだ。小中一貫校についての方向性をまとめるのは来月でいいのか意見を伺いたい。
- 座長 : 来月の懇話会は、今までの経過を踏まえてどう考えているのか皆様にご意見を言っていただくことになるが、そういう方向性でいいのかどうかご意見を伺いたい。
- 参加者 : 北小の子どもが減り教師が減る中、どうしていくべきか自分が舵を取っていかなければならないという結論に達し、北小の先生方には、懇話会便りや資料として出たイメージ図を配り、意見があれば校長室へ、と言ってきたが、腹を割って話し合う時間がなかなかなかった。今いる15人の教職員のうち、これから3年間で7人が退職する。そのため小中一貫校については考えに温度差がある。退職する者は無責任な意見は言えないと言う。若い教員たちは、小中一貫になるんでしようと言っている。ただ、経験のないことをこれからするので不安だとも言っていた。あと6年間はここにいるので頑張るつもりだと言う若手教員もいる。人員配置をしっかりとやってほしいという意見もある。おおむね、小中一貫校にしてすばらしい学校を作りたいという考えだ。
- 参加者 : 生駒北小学校区連絡協議会は8つの自治会からなっているが、今年度になって毎月集まっている。サンヨースポーツセンターの購入や小中一貫校設置で地域が大きく変わる可能性があるからだ。今までは1年で自治会長は替わっていたが、長い目で見て地域づくりを考え、いろいろな団体ともネットワーク作りをしていこうとやり始めたところである。きっかけは小中一貫校ができることだったので、ありがたい。今までは街づくりについては生駒市が何とかしてくれるのが当たり前だと思っていたが、自分たちで汗をかいて学校を核とした地域づくりをしていった方がいいのではないかと話し合っている。通学路の安全や地域がお年寄りを支える元気な街づくりについて考えていきたい。そのため、以前に富雄第三小学校の自治連合会の会長から話を聞いた。今度は大原地区の自治連合会会長から話を聞かせてもらう予定である。というのも大原は高山と同様に市街化調整区域であり、子どもの数も減っているからである。どういう地域づくりをしているのかを聞いて、次回の懇話会では報告できると思う。
- 参加者 : このメンバー内で認識を共有しなければ、他の人に聞かれたときに、同じことを説明しているつもりでも、違った内容で伝えてしまうかもしれない。メンバー内の考えを先生にペーパーにまとめてもらいたい。やわらかいまとめで結構だ。まとめてもらうとありがたい。保護者代表としていどばた会議を立ち上げ、7月にアンケートを行い夏休み前に保護者に結果をまとめて返した。その中で出た保護者の不安や質問を市に伝え、市としての回答を得て9月には保護者に還元している。保護者代表としての役割は果たせたと思う。7月のアンケートでは4割弱が賛成、6%が反対、50%がどちらでもない、回答なしが6%だった。懇話会の流れから言っても、保護者の意見からしても、このまま前を向いて進んでいくのかなと思っているが、反対の方や不安を抱いている保護者もたくさんいる。前に進んでいくとは思いますが、そんな意見も踏まえて進めていってほしい。この場を借りていどばた会議の活動を中心となって進めていただいた保護者の方にお礼を言いたい。
- 参加者 : 市の回答を見て、これ以上言ってくる人はいないと思った。市の覚悟ややりたいという市の思

い、市はいろんな意見を受けようと思っっていること、それらが回答からうかがえた。お金の問題や、懇話会や市長のやり方に納得できない保護者もいる。しかし子どものために前を向いていかねばならないと親も覚悟はしている。先生方が前向きに考えてくれているのも親としてはうれしい。今より変わってほしいこととしては、子どもの数が増えて学年が2クラスになることである。そのためには売りになるもの、いいなあと他の地区の保護者が思うようなものがほしい。どこかで切らないと話が進まないのが10月だと親は覚悟を決めている。

よろしくお願ひしたい。

参加者 : 流れとしてはそうなっていくのかなあと思っっている。子どもに向き合う教師が少なく、子どもと向き合う時間がないのでは困るので人的配置を考えてもらいたい。それと、校舎が新しくなるのが売りになって小中一貫校に多くの子どもが来るようになってほしい。中学校の入試と小中一貫校の工事が重なって不安に思っっている保護者もいる。しかし、先を考えるとこれはいいことなんだと思っしてほしい。小柳先生の懇話会としてのまとめもほしい。

参加者 : 小中一貫校を市長が提案して1年たっていない。非常に早い。普通なら4~5年はかかる。我々は小中一貫校についての新しい情報を今まで得てきた。コミュニティ・スクールなど新しい考えでは、学校を地域が背負っていかねばならないと言っっている。振り返ってみれば、学校文化には地域が関わっていたことがよくわかった。そんな意味では小中一貫校が脚光を浴びている。聞いたところでは7年後ぐらいには次の新しい教育課程が出てくる。だから今0歳の子に提供できるものが大切で、そんな意味で小中一貫校はいいのではないか。これからは具体的な施設について先を見た知恵を出していかねばならないと思っ思う。次の教育課程では21世紀型学力の日本版も出てくると思っ思う。その時にその情報を先取りした学校文化を創っていくべきであろうと思っっている。懇話会ではいろんな意見が出てよかったと思っ思う。

事務局 : 本来10月にこういっった話を、と思っっていたが、今日は熟した話し合いになった。市教委が欲しいと言っっているのではない。懇話会から先生のまとめたものが欲しいという意見が出た。懇話会委員の求めに応じて作っっていただいたまとめを、次回の懇話会で小柳先生から提示していただき、それを深めるということでもいいだろうか。先生の監修のもとで深めていくとすっきりするのではないか。

座長 : 次回は今までの議事録から話し合いの概略をまとめるので、こんな意見があっった、絶対にここは押さえておいて欲しいという意見があっったという事実を明記し、紙ベースで提示するので皆さんに確認していただく、そんな方向性でいいか。

事務局 : こちらとしては懇話会としての意見を紙で、また小柳先生にまとめてもらうことは考えていなかった。それがあると教育委員会にも提示できるのでありがたい。

座長 : 皆様の指示に従い、座長としてまとめを作るようにする。

## 6 事務連絡 (事務局)

次回の懇話会は10月16日(水)19:00~21:00に、生駒北小学校多目的室で行う。

## 7 閉会あいさつ (峯島部長)